

第 13 回山ノ内町立学校づくり準備委員会（まちづくりこども委員会合同）次第

日時：令和 8 年 7 月 22 日（水）午後 3 時 15 分

場所：山ノ内町文化センター 3 階ホール

【第 1 部 まちづくりこども委員会合同会】 午後 3 時 15 分～

1. 開 会

2. あいさつ

3. こどもと大人のごちゃまぜ会議・資料 1

4. 閉 会

【第2部 第13回山ノ内町立学校づくり準備委員会】 午後4時50分～

1. 開 会

2. あいさつ

3. 報告事項

(1) 前回会議の結果について・・資料2

(2) 第2回施設部会（教職員WS）の開催結果について・・資料3

(3) 民間事業者へのプール授業委託について

4. 会議事項

(1) 第2回地域学校協働部会の開催結果及び部会からの提案事項・・資料4

(2) 校名決定までの流れについて・・資料5

5. その他

①学校づくりシンポジウム8月20日（木） 午前10時 山ノ内中学校音楽室

②準備委員会視察10月7日（水）PM

③次回準備委員会（専門部会合同）

・9月25日（金）午後5時 町文化センター3階ホール

④直近の専門部会開催情報

・第2回通学安全部会 8月19日（水）午後5時半 役場401会議室

・第3回地域学校協働部会 8月21日（金）午後2時 南小児童クラブ→役場401会議室

・第3回施設部会 8月28日（金）午後5時半 役場401会議室

・第2回教育課程部会 8月31日（月）午後4時半 役場401会議室

6. 閉 会

山ノ内町立学校づくり準備委員会 名簿

全体統括		
学識経験者（信州大学）	伏木 久始	準備委員会委員長
所属	氏名	備考
東小学校PTA	関 裕美子	準備委員会委員
南小学校PTA	滝沢沙也加	準備委員会委員
西小学校PTA	外山 平	準備委員会委員
山ノ内中学校PTA	山口 辰也	準備委員会委員
かえで保育園保護者会	望月和佳奈	準備委員会委員
ほなみ保育園保護者会	下田 玲奈	準備委員会委員
よませ保育園保護者会	畔上 俊樹	準備委員会委員
東小学校長	北垣内 博	準備委員会委員
南小学校長	中村まゆみ	準備委員会委員
西小学校長	神田 和幸	準備委員会委員
山ノ内中学校長	山口 近	準備委員会委員
園長会（すがかわ保育園）	櫻井 裕香	準備委員会委員
山ノ内町社会福祉協議会	鈴木 浩史	準備委員会委員
子ども会育成会連絡協議会長	小林 正俊	準備委員会委員
議会社会文教常任委員会委員長	高田 佳久	準備委員会委員
学識経験者（学校長経験者）	原 隆文	準備委員会委員
里山ようちえん おやまのおうち	山崎 龍平	準備委員会委員
ICT教育コーディネーター	清水 智	準備委員会委員
主任児童委員	佐藤 重子	準備委員会委員
社会教育委員	羽田 吉彦	準備委員会副委員長
教職員経験者	湯本 文洋	準備委員会委員
教職員経験者	宮寄佐智子	準備委員会委員
公募委員	新井 彩香	準備委員会委員
公募委員	杉戸 香奈	準備委員会委員
議会社会文教常任委員会副委員長	畔上 恵子	準備委員会オブザーバー
令和7年度準備委員会委員	南條信太郎	準備委員会オブザーバー
令和7年度準備委員会委員	平原 剛	準備委員会オブザーバー
令和7年度準備委員会委員	小湊 崇法	準備委員会オブザーバー
令和7年度準備委員会委員	山戸真理子	準備委員会オブザーバー
令和7年度準備委員会オブザーバー	金井 学	準備委員会オブザーバー
令和7年度準備委員会オブザーバー	瀬川 夏実	準備委員会オブザーバー
長野吉田高校	山崎 蒼太	ユースサポーター
須坂高校	養田 笑奈	ユースサポーター

長野清泉女子学院高校	中山 咲花	ユースサポーター
長野大学	畔上 大空雅	ユースサポーター
國學院大學	山本 智也	ユースサポーター
金沢学院大学	宮崎 千優	ユースサポーター
中野西高校	宮崎 春佳	ユースサポーター
中野西高校	小林 音和	ユースサポーター
中野西高校	町田 速斗	ユースサポーター
中野西高校	佐藤 源太	ユースサポーター

事務局

教育長	竹内 延彦	
教育次長（こども未来課長）	山本 敏幸	
こども未来課学校統合準備係長	佐藤 洋介	
こども未来課学校統合準備係	菅原 勇介	
こども未来課学校統合準備係	新井 宥佑	

令和8年度 山ノ内町まちづくりこども委員 名簿

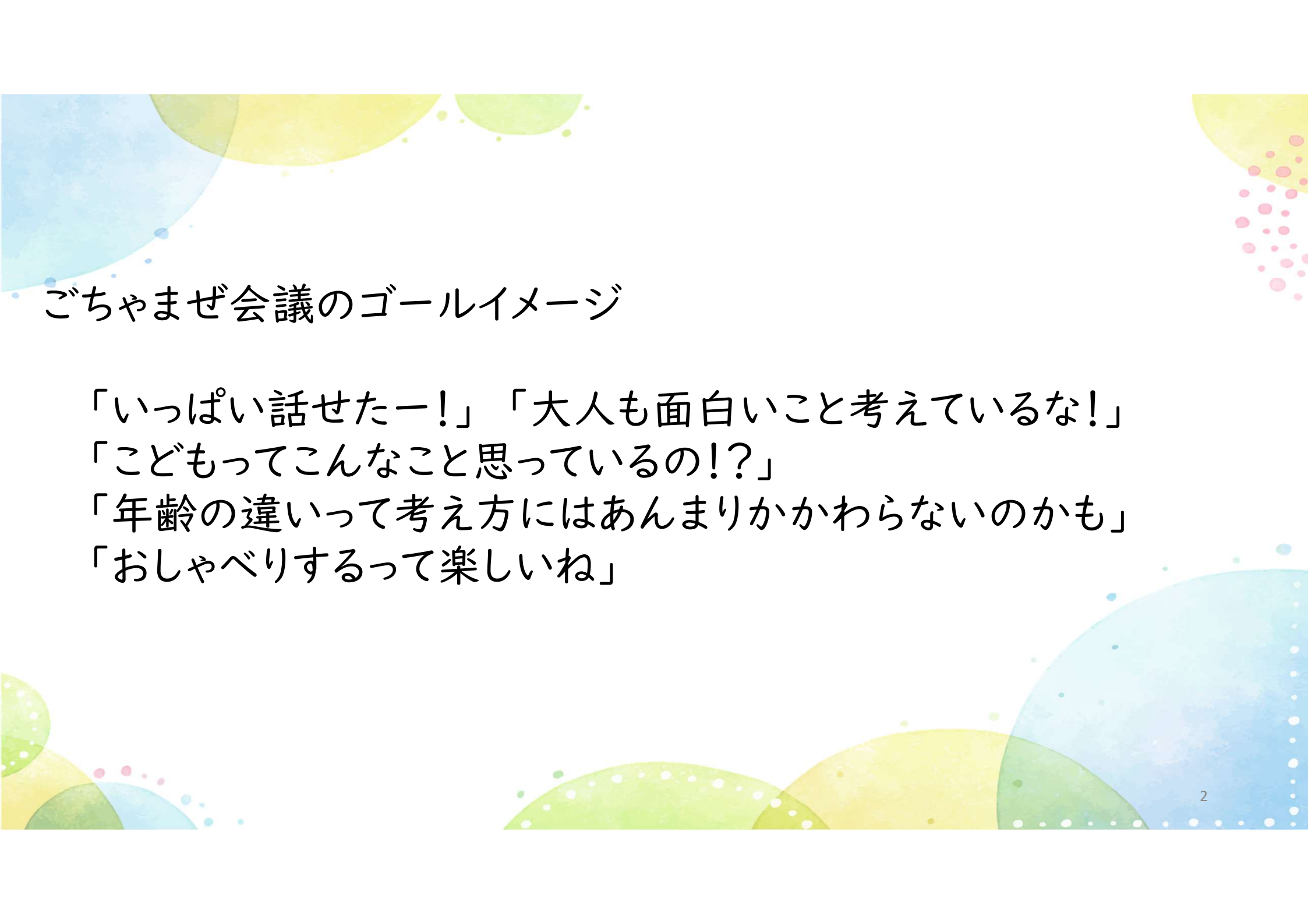
	年 組	名 前	備 考
1	1年1組	高相 紗羽	
2	1年1組	保倉 ^{はやと} 隼斗	
3	1年2組	渡辺 陽之助	
4	1年2組	田村 絢音	
5	2年1組	北澤 武留	
6	2年1組	西山 遥花	
7	2年1組	下田 ^{めい} 芽生	公募
8	2年2組	高相 ^{けんた} 賢大	
9	2年2組	畔上 愛子	
10	2年2組	山本 ^{おうか} 桜叶	公募
11	3年1組	山口 莉子	
12	3年1組	関 晴一郎	
13	3年2組	大碓 玲哉	
14	3年2組	岩本 芽愛	

令和8年7月22日 第13回学校づくり準備委員会

資料 1



こどもと大人のごちゃまぜ会議 ～立場なんて無関係 好きに話そう～



ごちゃまぜ会議のゴールイメージ

「いっぱい話せたー!」「大人も面白いこと考えているな!」

「こどもってこんなこと思っているの!?!」

「年齢の違いって考え方にはあんまりかかわらないのかも」

「おしゃべりするって楽しいね」

キャプテン決定戦（キャプテンは大人です!）

- ① 自己紹介をしましょう
〇月〇日うまれの××××です!! 単純にこれだけ
- ② では傍聴の△△さんの誕生日を聞いてみます。
- ③ △△さんともっとも誕生日の近いあなた IRのキャプテンです

※キャプテンの仕事・・・グループの話し合いをすすめる

意見のまとめなどはグループの人の力をかりて行いましょう!

ごちゃまぜトークIR

テーマ:「授業楽しくね～ つまんね～」・・・そもそもだけど、
みんなにとって楽しい授業って、どんな授業なの？

※ 楽しい=参加したい、やりがいを感じる、もっと学びたい!!のような意味

※ 元中学生のみなさんは現役中学生になった気持ちで考えてみてください!!

昨年の中学生からはこんな意見が!!~学校のことを思い浮かべて~

① 学校の中で居心地の良い場所について

- ・廊下 廊下がほかのクラスの友達と話す場所になっている。
- ・音楽室 いろいろな楽器に囲まれていると落ち着く。
- ・視聴覚室 のんびりできる場所になっている。
- ・玄関 自由に使っていい電子ピアノが置いてあり、ときどき弾いている。
- ・保健室 先生が好きだから。
- ・教室 結局いつもいるし教室がいいと思う。

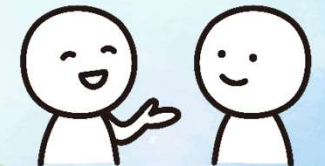


② 居心地が悪い場所・不安な場所について

- ・職員室 何か良くないときに呼ばれる場所だと感じる。
職員室に入るときルールがあって、大事かもしれないけれどもどうかとも思う。
- ・3階 暑い 3年生の教室があるところは何となく行きにくいと感じる。

③ 楽しい授業について

- ・友達と相談して考えあうような授業は楽しいと思う。
- ・聞いて書いているばかりの授業は退屈だと思う。
- ・先生方は一生懸命コミュニケーション活動やゲームを考えてくれていると思うけれども、活動がどうしても小学生くらいの内容に感じてしまうこともあり複雑。
- ・3年生になると毎月テストがある。そんなに必要なのかと思う。
本当に苦手なことなどがわかるならいいけれども、結局点数がついて比べられるだけ



進め方

- ① 自分の考えを短く付箋に書く（たくさん書きましょう）
もし思いつかなかったら、逆に「つまらない授業」を書こう
- ② キャプテンの進行で順番に1つずつペタペタはる
- ③ 同じ意見は重ねたり、似たようなものや関連する意見は
近くにはったりして構造化する。
- ④ （可能なら）みんなの意見をまとめてみましょう
「私たちのグループが考えた楽しい授業は・・・」
- ⑤ 共有の時間

ごちゃまぜトーク2R

テーマ:もしも もしもだよ 学校生活において
毎週1時間(50分)「自由にやりたいことをしよう」って
言われたらみんなは何をしたい?

※ 元中学生のみなさんは現役中学生になった気持ちで考えてみてください!!

調整授業時数制度に関し検討が必要な事項の全体像

調整授業時数制度の
具体的な在り方

1 調整が可能な教科等（標準を下回って時数を設定可能な教科等）をどのように考えるか

2 調整が可能な時数の上限（標準を下回って時数を設定可能な幅）をどのように考えるか

教科B

教科C

調整授業時数

調整授業時数

① 既存教科等に乗せ

② 教科新設

※教科BとCの内容を扱う必要無し

③ 「裁量的な時間」に充当

調整授業時数

教科A

新教科

(学校が必要に応じて設定)

(ア) 児童生徒の
資質・能力の育成に
特に資する教育活動
(学習枠)

(イ) 教師の
組織的な
研究・研修等
(研究・研修等枠)

上限の設定

上限の設定

既存教科等の上乗せ、教科の新設等について、「裁量的な時間」と区別しつつ、時数の上限の設定をどのように考えるか

4

「裁量的な時間」の「学習枠」、「研究・研修等枠」のそれぞれについて、要件・時数の上限・類型をどのように設定するか

3

これらの仕組みの不適切な運用を防ぎ、国・都道府県・市町村と各学校が必要に応じて改善を図り、質を確保する仕組みをどのように設けるか

6

現行の教育課程特例校制度で
認められる特例

教科D

教科E

既存教科の内容の組み替え

※教科DとEの内容を扱う教科を新設

教科DE'

調整授業時数制度を導入する際、現在の教育課程特例校制度の扱いをどうするか

※授業時数特例校制度により可能な措置は、左記の調整授業時数制度の範囲内であることから、同制度に統合する方向

5

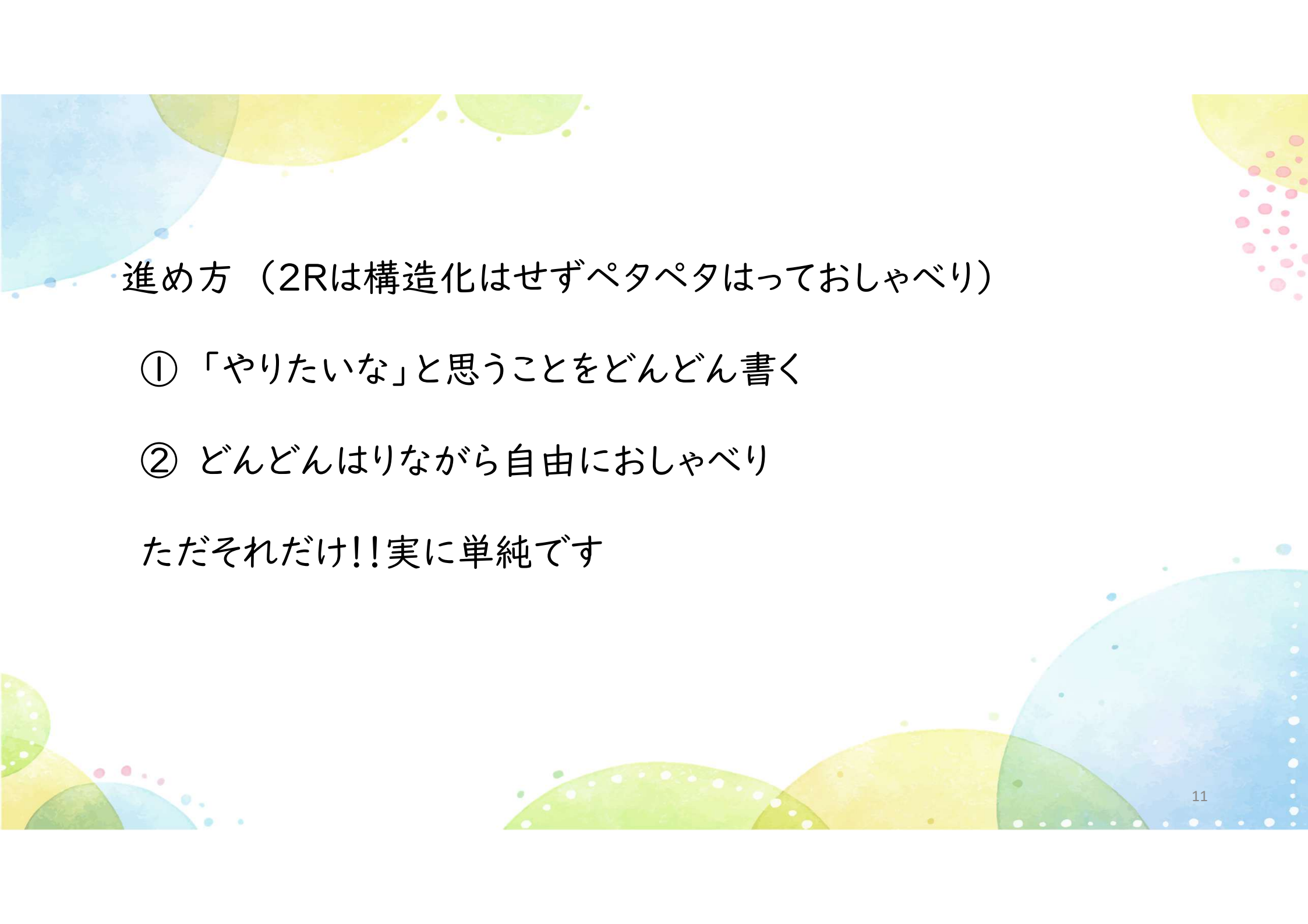
さかえ小中学校の日課（今年度開校しました）

- 学校行事等について話し合う「とねんぼタイム」
毎週月曜日30分 毎週火曜日15分
- 校長講話、集会、学年行事、児童生徒会活動などの「共育タイム」
毎週水・金曜日30分 毎週木曜日15分
- 中学生も2時間目休みは20分+移動5分
- 中学生も45分授業

宇治市のとある中学校では・・・

- 毎日ではないのですが・・・
15分か30分の7時間目 😬
- でも下校は15:30くらいです。
- 委員会の数を増やし、月に2回程度生徒によるミーティングをとっているようです。
テスト前の補習もするようです。

校時表（45分授業）					
A 掃除なし +15分			B 掃除なし +30分		
	6時間	5時間		6時間	5時間
朝学活	8:30 ~	8:35	朝学活	8:30 ~	8:35
1校時	8:40 ~	9:25	1校時	8:40 ~	9:25
2校時	9:35 ~	10:20	2校時	9:35 ~	10:20
3校時	10:30 ~	11:15	3校時	10:30 ~	11:15
4校時	11:25 ~	12:10	4校時	11:25 ~	12:10
準備 昼食 片付け	12:10 ~	12:45	準備 昼食 片付け	12:10 ~	12:45
休憩	12:45 ~	13:00	休憩	12:45 ~	13:00
5校時	13:05 ~	13:50	5校時	13:05 ~	13:50
6校時	14:00~14:45		6校時	14:00~14:45	
7校時 (15min.)	14:50~15:05	13:55~14:10	7校時 (30min.)	14:50~15:20	13:55~14:25
終学活	15:05~15:15	14:10~14:20	終学活	15:20~15:30	14:25~14:35
C 掃除あり			D 掃除なし		
	6時間	5時間		6時間	5時間
朝学活	8:30 ~	8:35	朝学活	8:30 ~	8:35
1校時	8:40 ~	9:25	1校時	8:40 ~	9:25
2校時	9:35 ~	10:20	2校時	9:35 ~	10:20
3校時	10:30 ~	11:15	3校時	10:30 ~	11:15
4校時	11:25 ~	12:10	4校時	11:25 ~	12:10
準備 昼食 片付け	12:10 ~	12:45	準備 昼食 片付け	12:10 ~	12:45
休憩	12:45 ~	13:00	休憩	12:45 ~	13:00
5校時	13:05 ~	13:50	5校時	13:05 ~	13:50
6校時	14:00~14:45		6校時	14:00~14:45	
清 掃	14:45~14:55	13:50~14:00	終学活	14:50~15:00	13:55~14:05
終学活	14:55~15:05	14:00~14:10			



進め方（2Rは構造化はせずペタペタはっておしゃべり）

① 「やりたいな」ということをどんどん書く

② どんどんはりながら自由におしゃべり

ただそれだけ!! 実に単純です

山ノ内町立学校づくり準備委員会 会議結果報告書

会 議 名	第 12 回山ノ内町立学校づくり準備委員会	
日 時	令和 8 年 6 月 17 日（水） 午後 5 時 30 分～午後 7 時 10 分	
会 場	山ノ内町文化センター 3 階ホール	
出席・傍聴人数	出席 29 人 / 欠席 3 人	傍聴者 4 人
	ユースサポーター 2 名出席	
会議内容	【伏木委員長あいさつ】 この会議は行政の難しい会議から転換し、北欧のフィーカ方式をとっており、委員の皆さまも会議に来たからには何か意見を話すというようなスタンスで現在 2 年目を迎えた。委員の皆さんはこの学校づくりだけではなく、今後の山ノ内町のまちづくりの主役ひとりひとりとなっていく気持ちで、また、重要なメンバーと考えているので、本日も皆さんで活発な意見を出し合っていきたい。と、鼓舞・激励のあいさつをいただいた。 【報告事項】 （１）この会議のスタンスと新しい学校のコンセプトについて（資料 1） この会議は委員全員で意見を出し合う会議であること、新しい学校の「たてのつながり」「よこのひろがり」そして、新しい施設については作りこみすぎない「余白」の部分について、振り返った。 （２）前回会議の結果について（資料 2） 前回会議の結果を報告。 （３）設計プロポーザル 提案内容の共有 株式会社 宮本忠長建築設計事務所より、改めてプロポーザル提案時点での設計提案内容を発表してもらい、準備委員会で内容を共有した。 （４）まちづくりこども委員会の開催結果について 6 月 10 日に実施した第 1 回まちづくりこども委員会の結果を報告。第 1 回まちづくりこども委員会では、中学生の委員の皆さんに現段階の設計平面図を確認してもらい、意見を出し合った。 【会議事項】 （１）校名の検討方法について（資料 3） 校名の検討方法について、ユースサポーターに検討方法を依頼。検討結果をユ	

	ースサポーターから発表。 ●伏木委員長のコメント まず検討方法について、ユースサポーターの皆さんが検討するということ、この会議にとってとても重要なことと思う。私なりの意見としては、ステップ②の段階でテーマをもって絞り込むのではなく、町民の募集の段階でテーマを設定する必要性があるのではないかと考える。 ユースサポーターからの校名の検討方法に基づき、校名を絞り込む際のテーマ設定のためのアイデアだしを行うため、グループワークを行った。 ※グループワークのまとめは別紙のとおり ●伏木委員長のコメント 今回のグループワークのテーマは大変難しいものであったが、委員の皆さまからはたくさんの意見をいただいて、大変感謝している。 今回の意見は、校名の検討のみならず、校歌の検討にも使えるのではないかと感じた。
決定事項等	・校名の検討方法の大まかな流れ（詳細な内容については次回提案予定）

第 12 回山ノ内町立学校づくり準備委員会 グループワークのまとめ

1. 未来軸（こどもたちへの願い）

① 自立と挑戦（主体性・たくましさ）

探究・学習： 興味をもって知ろうとする、自ら学ぶ、学習への苦手意識を軽く

挑戦・継続： チャレンジができる、あきらめない気持ち、広い可能性

心の安定： 落ち着いている、慌てない、のびのび、明るい、元気、楽しく生きる子

② 協働とコミュニケーション（つながり）

他者理解・共生： 協働力、思いやり、人の気持ちがわかる、他者とのつながり

多様な集団： 異学年との助け合い

表現・発信： 自分の考えをもって伝えられる

③ 自己肯定感とアイデンティティ（自信と愛着）

自己尊重： 自分への自信、自分を大切にする、個性がある

郷土愛： 故郷への自信、ふるさとを愛する子

④ 豊かな知性と感性（グローバル・未来への広がり）

思考・視野： 想像力、多角的な視野、振り返ることができる

感性・健康： 感性豊か、運動大好き

世界への広がり： 世界で輝ける、外国語に強い

2. 地域軸（山ノ内町って）

① 豊かな自然と独自の環境

地形・気候： 山、高原、志賀高原、里山、緑、雪

資源・象徴： 水資源、星空、温泉、桜、フルーツ

動植物・国際認証： 猿、スノーモンキー、ユネスコエコパーク、自然豊か

② 文化・観光と「おもてなし」

産業・文化： 観光、リゾート、文化、雪白舞

芸術・教育資産： 音楽（小澤先生、コカリナ）

姿勢： おもてなし、豊かさ

③ あたたかい人とコミュニティ

関係性： 人のあたたかさ、お年寄りが元気

④ 地域から世界へ

世界との距離： グローバル、世界が近い

3. 響きデザイン（学校名・愛称へのアイデア）

① コンセプト・一体感（込める想い）

町の一体感： オール山ノ内、山ノ内、やまのなか

未来と開放性： みらいやまのうち、オープン山ノ内

地域資源の象徴： スキー

② 言語と表記のスタイル

グローバル： SHIGA、英語の響きもいい、カタカナ、〇〇スクール、

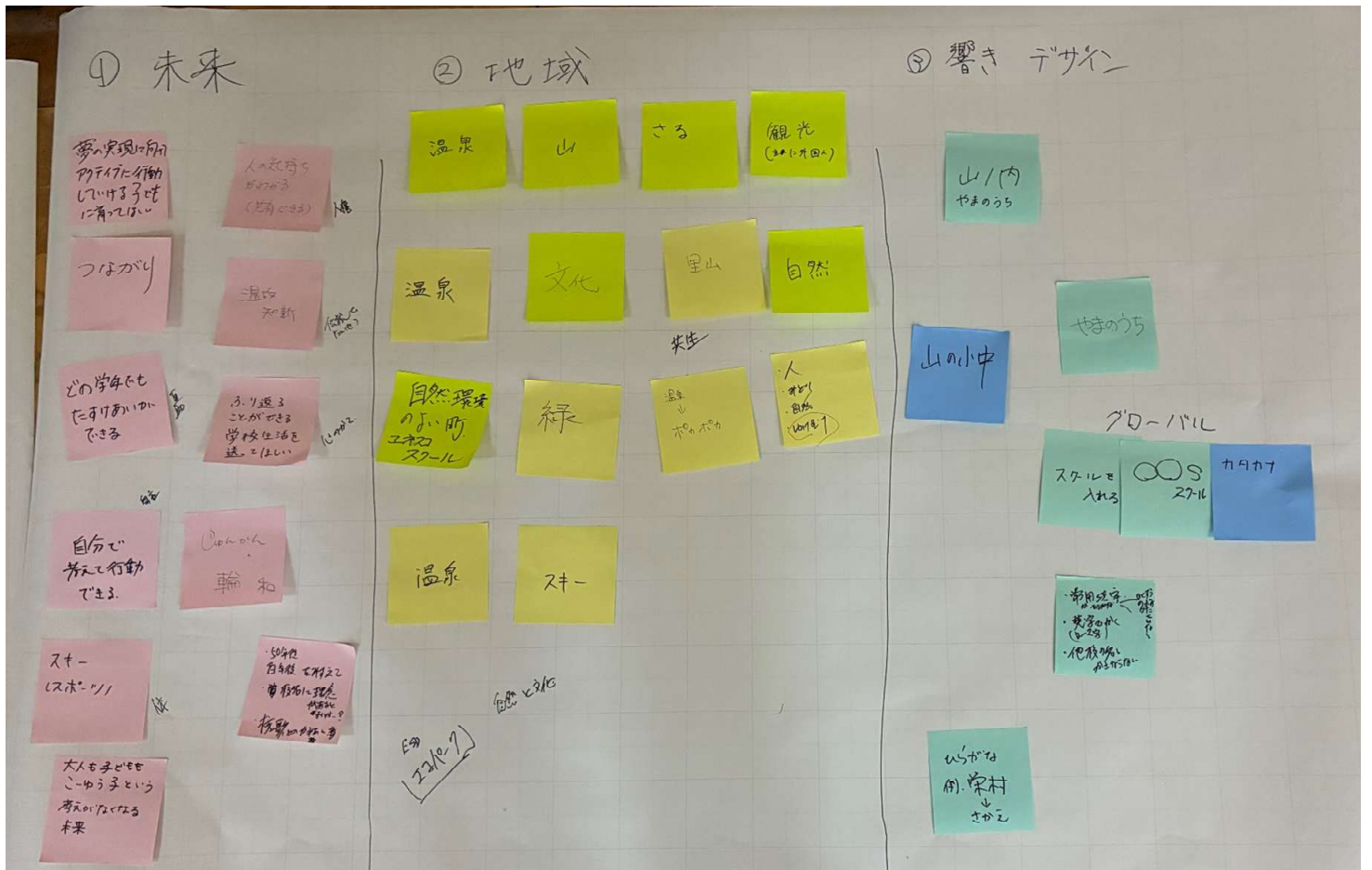
親しみやすさ・伝統： ひらがな、「山」を入れる

③ 名称としての機能性・条件

発音・分かりやすさ： 誰でも発音できる響き、ぱっと見で学校とわかるもの

〇〇学園、やまのうち小中学校、「学校」「学園」以外で5文字

独自性・インパクト： かぶらないオリジナリティ、インパクトが強い



① 未来

ちがうものに
興味をもつ
知ろうとする
こと

協働
地域の
異世代
年代別 etc.

危なことを
あてない
こと
ことし
ことし

思いやりの
心を
たのし

のびのび

自分 地域への
自信

緑と赤
と茶色

フルーツ

おめでなし

雪と緑

ゆめ
創造

暑い
寒い

雪

猿

町への愛着

物事を
いろんな面
から考えられる人

山

果物
りんご ぶどう

温泉
巡

② 地域

インバウンド
(グローバル)

リゾート

音楽の町
小澤先生
コカリナ etc.

生き物に
よく
さぐらう

SHIGA

オール
山内

山内

たまのなが
山の中

オープン
山内

誰でも
発音できる
響き

みらい
やまうら

英語で
人々の意味の
ない単語

山内は
いい

短すぎ
長すぎ

あつたの

響き

省略の
響きがい
呼ばれ

ひらがな

ひらがな
3文字
(あいうえお)

ひらがな

やまのうら
ひらがな

ひらがな
ひらがな

優しい子

優しい

優

自分の
意見も
持つ

人を知る

思いやりの
ある子

自分と
太極に
する

光

フーリエ
Yamanashi
を

やさしい
あの子

チャレンジ
できる

山内も
愛する

感性
豊かな

素直

原体験
半信半疑
それ

強い子

運動
大好きな
子

ユネスコ

豊かな自然

豊か

自然
(山)

山内
山内

豊かな
水

人の温かさ

志賀高原

志賀高原
リバー
バー

りんご

お年寄り
が大切に
する

温泉

りんご

サイン
スカー

温泉

りんご

スキー

旅行客
が来る

雪白舞

サル

星空

スキー

雪

第 2 回 施設部会（教職員 WS 合同） 議事録（要旨）

開催日・出席者等

開催日時 令和 8 年 7 月 2 日（木）午後 5 時 30 分から午後 7 時 30 分

場 所 山ノ内町文化センター 2 階学習室

出 席 者 【施設部会】

学識経験者（学校長経験者）	原 隆文（部会長）
山ノ内中学校長	山口 近（副部会長）
南小学校 P T A	滝沢沙也加
よませ保育園保護者会	畔上 俊樹
議会社会文教常任委員会委員長	高田 佳久
教職員経験者	湯本 文洋
オブザーバー	小湊 崇法
オブザーバー	山戸真理子
学校共同事務代表	元田 和行

【教職員】

東小学校長	北垣内 博
南小学校長	中村まゆみ
山ノ内中学校	中村 有希
西小学校	浅井 茂樹
南小学校	齋藤 義和

欠 席 者 3 名

●会議の内容

- ・ 原部会長よりあいさつ
- ・ 施設部会と教職員の方々に分かれて、（１）現段階の設計平面図での課題の抽出、（２）教科教室型について意見を出し合った。

※意見の内容及びまとめについては「別紙」のとおり

●決定事項

- ・ 今回の意見をもとに、設計平面図に変更を加えていく

●開催概要

- ・ 2026/7/2(木)17:30～19:30
- ・ 「たてのつながり」「よこのひろがり」「その他計画へのコメント」について考えるグループワーク
- ・ 「教科教室型」の運用に対する意見交換

●出席者

- ・ 施設部会委員 8 名、教員5名、
教育委員会事務局、
宮本忠長建築設計事務所



○趣旨説明



○グループワーク(施設部会)



○グループワーク(教員)



○意見交換(模型)



○意見交換(模型)



○グループワーク(教員)

date : 2026/7/2 title : 「施設部会・教職員WS」



施設部会グループワーク

date : 2026/7/2 title : 「施設部会WS」 theme : 「たてのつながり・よこのひろがり他」



教員グループワーク

date : 2026/7/2 title : 「教職員WS」 theme : 「たてのつながり・よこのひろがり他」

●WS検討課題の整理

①地域ユニット・ロータリー・給食センターの配置計画

○事務局

・前提条件として給食センターの建て替えの選択肢があるか再確認

(敷地有効活用の可能性は飛躍的に向上するが、予算確保など)

・バスの運用(敷地外での乗降が可能か)と職員駐車場確保

・放課後児童クラブの設置場所、運用方針

(今回施設での整備必須か(手狭なロータリーのスペースを圧迫))

○設計

・地域ユニットの配置バリエーション検討

・放課後児童クラブの配置案検討

②管理ユニット内の室レイアウト

○事務局＋設計

・「保健室、事務室、職員室」の位置

・1,2Fに必ず配置しなければならない室の整理

・相談室の配置

③倉庫棟

○事務局＋設計

・撤去の可能性検討

④小アリーナ

・前期課程ユニットへの音漏れ対策

⑤メディアストリート

○事務局＋設計

・内部のゾーニング、活用方法

⑥特別支援学級

○事務局

・特別支援学級の配置と必要スペース

⇒収容人数、必要面積や室数など条件整理お願いします

⑦地域ユニット

○事務局＋設計

・「誰でも入れる」「特定の大人が入れる」「子ども専用」ゾーンの設定、管理運営の再確認

○事務局

・室ごと、時間帯ごとの管理者(運用する責任者)とセキュリティの考え

⑧その他個別

○事務局＋設計

・5, 6年教室周辺でのデンのような場

・幼、保との連携スペース(OSや教室を活用?)

・避難経路や緊急車両の動線

●教科教室型についての主なコメント

①生徒の固定の居場所

- ・ホームルーム・自分の固定席がないと生徒が落ち着かないのではないか

②教科教室との相性

- ・「英語」など、一部力を入れたい教科や、「社会」など教室を教材で彩ることと相性がよさそうな教科は教科教室として整備しても良いのではないか。
- ・「国語」、「数学」は教科教室として整備するメリットがあまりイメージできない。ホームルームで行っても良いのでは。
- ・「日本語教室」は、人通りの多い場所への配置(現状、2Fメディアストリートとの接点に計画)はふさわしくないのではないか。賑わいから離れて落ち着いた場所が適当では。

③ホームルーム＋一部教科教室採用の可能性

- ・7-9年生も専用のホームルームは設置し、②で相性の良い教科(英語、+αとして社会など)を教科教室として整備し、「良いところ取り」するのが良いのではないか。
- ・後期課程ユニット各階中央部(メディアストリート付近)を中心に教科教室を整備するのが良いのでは。その際、ガラス張りにして学びや発表をオープンにする、ICT設備を充実化する、などホームルームと教室の設えを変えることも良いのではないか。

●その他

①義務教育学校の教育課程の議論の必要性

- ・現状提案では4-5年制の校舎となっている。
- ・山ノ内町が目指す義務教育学校としてどのような区切りがベストなのか教育課程部会などで議論を深める必要があるのではないか。(他校では6-3制などもある)
- ・校舎のつくり方の前提条件となるため早急な議論が必要ではないか。

②4-5年生について

- ・5, 6年生は、中学生の先生が「乗り入れ」で教えることが多くなる。一方で4年生までは担任の先生がホームルームで授業をすることがベースとなる。
- ・そういう点では4-5制も良いように思われる
- ・普通教室棟の広さ、増築面積(=建設コスト)をおさえるという、4-5年制のメリットも理解できる。

date : 2026/7/2

title : 「施設部会WS」

theme : 「教科教室型」

●教科教室型についての主なコメント

①ホームルームの必要性

- ・クラス単位で学級目標など掲示したい。学級の一体感を高めるためには、1クラス1教室分程度のスペースが望ましい。
- ・学活や給食を考慮すると1教室分程度の広い占有スペースが欲しい。

②教科教室のメリット

- ・英語などは、教科に特化した設備や教材の配置を行うことで、専門的な学びを高められる期待感がある。

③将来への可変性

- ・ベースは特別教室型にしておいて、将来教科教室型に変更していくことが可能では。
- ・教育の在り方も変わっていくし、現段階で決め切らずに将来的に柔軟に対応できるようにしておくことが重要ではないか。
- ・少子化によって、将来的に学年1クラスになる可能性も十分ある。そうすると教室が余るので、ホームベース=1教室分を確保し、全面的な教科教室型に移行することもできるのではないか。

④生活面での懸念

- ・毎時間の移動や荷物の管理を考えると、ホームベースのスペースや機能が中途半場になり、効果が発揮しにくいのでは。また、教科に特化した専門教室で給食や学級活動を行うことの違和感や、時間割編成（教室の重複回避）が難しいのでは。
- ・中学生の休み時間は移動だけで精一杯になり、こどもたちが心理的に一息つける場所の確保や時間的なゆとりが必要。
- ・毎時間の移動や多様な出入りがあるため、生徒指導上の課題（私物の管理や落ち着きなど）は間違いなく発生するが、学校側の運用の工夫でクリアできる可能性もある。

令和 8 年(2026 年)7月22日

山ノ内町学校づくり準備委員会 各位

地域学校協働部会

部会長 羽田 吉彦

新しい学校における放課後児童クラブの設置場所に関する提案について**Ⅰ 提案内容**

令和 12 年度(2030 年度)に開校を予定している新しい義務教育学校における「放課後児童クラブ」の設置場所について、地域学校協働部会として以下の通り提案します。

① 基本的な方向性

放課後児童クラブは、原則として「新しい学校の敷地内に別棟(現時点での設計案のような形)」で整備・集約する。施設定員は 120 名とし、こどもたちの放課後の過ごし方の選択肢を増やすという意味でも、新設する小アリーナや前期課程グラウンドなどの放課後活用について積極的に検討をすすめます。

② 北部児童クラブの扱いに関する方向性

将来的には北部児童クラブも含めた全町的な集約・整備することを部会としての方向性としませんが、地域事情や保護者の強い愛着に十分配慮し、段階的かつ丁寧な対話プロセスを経て決定することとします。

2 提案の背景

本方針の提案にあたっては、令和 8 年春に実施した「令和 12 年度以降の放課後活動に関する意向調査」の結果、およびこれまでの部会や今年の学校づくり準備委員会での議論を十分に勘案し、「山ノ内町こども基本条例」の観点からも「こどもファースト」の環境はどうあるべきかを最優先に判断しました。

(1) こどもたちの安心・安全の確保と移動リスクの排除

意向調査において、全体の約 63.3%が「新しい学校の校舎内または敷地内」を希望しています。特に低学年(1~3 年生)保護者においては、75%が校舎内・敷地内を希望しており、「移動に伴う事故や事件のリスク排除」を最優先とする声が多数を占めました。仮に学校敷地外に設置し、閉校した校舎の利用をした場合、毎日のバス等による輸送が今後永続的に発生し、これに伴う長期的な安全管理は町および指導員、学校職員等にとって相当な負担となることが懸念されます。校内・敷地内への整備が、もっともこどもたちの命と安全を守る選択肢であると判断しました。

(2) 集約による「見守り体制の強化」と「多様な交友関係」の構築

1 つの新しい学校に集約することで、配置される指導員の数が多くなり(1施設あたりの指導員の数)、こどもたちが校内の多様な場所に分散して活動しても、大人の目がしっかりと届く見守り体制が構築できます。また、町内全域のこどもたちが放課後も居住地に関係なく、新しい広い交友関係を築き、共に過ごすことができる充実した放課後環境を提供できます。

(3) 新校舎の施設(ESD・地域連携空間)の有効活用と多世代交流

未来を見越して整備する新しい学校には、柔軟な学習空間や ESD(持続可能な開発のための教育)、地域連携室などの設置が予定されています。これらの施設を放課後も子どもたちに開放し、学校の教職員と児童クラブ指導員が近距離で緊密に連携をとることで、子どもたちの精神的・体力的な負担を軽減します。さらに、地域ユニットを利用する住民やボランティア、ユース世代(中高生)等との豊かな交流も期待できます。

3 北部児童クラブの扱いに関する部会の考え方

意向調査結果において、東小(約 79%)、南小(約 77%)、西小(約 65%)の各利用者が高い割合で「校舎内・敷地内」を希望しているのに対し、北部利用者は 7/8 家庭が「新しい学校外(現行のすがかわふれあいセンター)」での継続運営を許容・希望しているという明確な傾向の違いが見られました。北部地区では、現在の恵まれた環境(図書館が自由に使える等)や送迎の利便性が高く評価されています。部会としては、この結果を重く受け止め、「多数決によって地域の居場所を一方的に切り捨てる」というアプローチは決して取るべきではないと考えます。

そのため、以下のステップによる丁寧な合意形成を提案します。

- ① **基本方針としての集約の提示**:施設の重複投資を抑え、人件費やバス運行費を最適化しつつ全体の質を向上させる観点から、将来的な「新しい学校内への集約」という理想像は共有する。
- ② **住民・保護者・こどもとの「対話の場面」の創出**:北部児童クラブの利用者、および将来の利用者となる北部保育園の保護者、そして当事者である子どもたちと、直接意見を交わす懇談・対話の場を設ける。
- ③ **対話の時期(予定)**:新しい学校の全体像や施設デザインがより具体的になり、こども視点でのメリットをイメージしやすくなる「令和 9 年度(2027 年度)」に実施することが適当であると考える。

ここでは単に「集約への同意」を求めるのではなく、新しい学校の図書機能や ESD 空間を放課後にどう活かせるかなど、子どもたちにとって真に魅力的な環境を「共につくる」ための前向きな対話を目指します。

4 準備委員会へ検討・審議をお願いしたい事項

地域学校協働部会としての本提案を受け、準備委員会において、以下の事項について具体的な検討をお願いします。

- ① **放課後児童クラブを新しい学校の校舎内・敷地内に整備する基本方針の承認**
 - 今後の基本設計・実施設計に反映させるための承認をお願いします。
- ② **北部児童クラブの段階的合意形成プロセス(令和 9 年度対話の場)の方向性について**
 - 北部地区の持つ「地域独自の放課後環境の良さ」を新しい学校にどう継承・包摂できるか、また令和 9 年度以降の対話による北部児童クラブの在り方の検討に関して進め方の検討をお願いします。
- ③ **「公的な預かり(児童クラブ)」と「自主的な放課後活動(閉校校舎等の活用)」の整理**
 - 本人の意思で移動し利用する「ユースセンター型」の自主的放課後拠点(閉校校舎の活用も検討)のあり方と、新しい学校内の児童クラブ、放課後こども教室との機能分担について、全町的な視点での議論をお願いします。(閉校校舎の活用に関する詳細な議論は町の公共施設検討会議で行います。)

山ノ内町立義務教育学校「校名」募集要項（案）

1 目的

令和 12 年 4 月の開校を目指す、町内 3 小学校と 1 中学校を統合した義務教育学校の「校名」について、町民の皆さまから候補を募集します。

2 校名決定までの流れ（予定）

- ・ 令和 8 年 7 月下旬～9 月下旬
町民の皆さまから校名候補の募集
- ・ 令和 8 年 10 月下旬～11 月下旬
応募のあった校名候補から山ノ内町立学校づくり準備委員会において、3～5 案程度に絞り込み
- ・ 令和 8 年 12 月
絞り込んだ案について、現在の小中学生及び保護者、保育園保護者を対象にアンケート
絞り込んだ案について、町民を対象としてパブリックコメントを実施
- ・ 令和 9 年 1 月
山ノ内町立学校づくり準備委員会において、校名候補の最終案を決定
- ・ 令和 9 年 2 月
山ノ内町教育委員会にて最終案を議決 校名の決定

※あくまでも校名候補を募集するプロセスのため、多くの応募があった校名、アンケートにより多くの支持があった校名が必ずしも採用されとは限らないことをご承知おきください。

3 山ノ内町立義務教育学校について

(1) 開校を目指す義務教育学校の概要

- ①令和 12 年 4 月開校
- ②3 つの小学校、1 つの中学校を統合した 9 年制の義務教育学校
- ③現在の山ノ内中学校敷地内に、既存の中学校校舎の改修と校舎の新築を行う

(2) 義務教育学校の目指す姿

● 4 つの「学び」の推進

①ESD の推進

町全体を学びのフィールドに、多様な地域資源を活用した体験重視の学びを大切にします。ユネスコスクールとして環境教育や平和学習などに取り組むとともに、県内外や海外の学校とも積極的な異文化交流を目指します。

②グローバル教育の推進

諸外国と交流できる英会話力と意欲を育み多文化共生を目指します。海外のこどもたちとともに学ぶ機会を大切にします。

③スポーツ芸術の推進

スポーツや文化芸術に幅広く取り組むことができる環境づくりを進めます。

④人権教育（誰一人取り残さない一人ひとりの学びを支える）

こどもたち一人ひとりが持ち味を発揮し、それを尊重しあえる環境づくりを進めます。

● 4 つの「学び」を支える 2 つの仕組み

①「たてのつながり」（義務教育学校）

7 歳から 15 歳までの 9 年間はこどもが大きく成長し、社会に巣立つための様々な体験に挑戦できる重要な期間であることから、9 年間の学びの連続性・一貫性を確保。町全体の小中学校がこれまで積み重ねてきた学びを一つにし、こどもたちが 9 年間ともに学び育つことで「みんな友達」「オールやまのうち」の意識を高め、よりよい成長につなげる仕組みを目指します。

②「よこのひろがり」(コミュニティスクール)

学校は地域全体で子どもたちを支えるシンボル「地域とともにある学校」となり、学び舎としての機能と質を高めていくため、学校と保護者だけではなく、地域の方、豊かな地域資源を活かして、町ならではの学びを実現する、充実したコミュニティスクールの仕組みを目指します。

4 校名選考の観点

校名候補を以下の観点で選考していきます。

(1) 校名は「〇〇学校または〇〇学園または〇〇スクール」とする。

【次の(2)～(4)のうち、1つ以上が含まれていること】

(2) 町の一体感が感じられ、山ノ内町であることがわかりやすい校名。

(3) 複雑な表記とならない校名。

(4) 4つの学びを踏まえた子どもたちへの願い、山ノ内町のよさが込められた児童生徒が誇りを持てる校名

※正式名称は学校名の前に「山ノ内町立」が入ります。

5 募集期間

令和8年7月24日(金)～令和8年9月28日(月)まで

(郵送の場合は締め切り日当日の消印有効とします)

6 応募方法

以下のいずれかの方法により応募できます。

(1) QRコードによる応募

(2) 郵送、FAX、電子メールまたは持参

※所定の応募用紙(別添)に必要事項を記入の上、応募願います。

(3) 小中学生の場合は、所属の学校への提出も可

★応募時の必要事項

- ①校名案（必ずふりがなを記入してください）
- ②校名に込める想い、または、その校名とした理由
- ③住所、氏名、電話番号

★応募の際の注意事項

- ・ 応募者本人が考えたものであり、他者の権利を侵害しないものとする。
- ・ 1回の応募につき、記入できるのは1つの校名案とする。
- ・ 応募にかかる費用は応募者の負担とし、応募用紙の返却は行いません。
- ・ 応募に際していただいた個人情報は校名選考以外には使用しません。
- ・ 決定された校名に関する一切の権利は山ノ内町教育委員会に帰属するものとする。

★応募先

応募フォーム：

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSc-Ugaub332uY7Ht5Me9Wv6q4gQU07TS_CsYCHof2zW3-s1Ng/viewform?usp=publish-editor



郵送先：381-0498 山ノ内町役場こども未来課学校統合準備係

電子メール：gakko@town.yamanouchi.lg.jp

FAX：0269-33-1104

7 問い合わせ先

山ノ内町教育委員会こども未来課学校統合準備係 佐藤・菅原・（担当）新井

電話：0269-33-1102

メール：gakko@town.yamanouchi.lg.jp

山ノ内町立義務教育学校「校名」応募用紙

お名前	
ご住所 小中学生は所属の学校名	山ノ内町大字
電話番号	
校名案 (ふりがな)	
校名に込める思い または その校名とした理由	

※記載事項を満たさない場合は、応募の対象外とします。

★応募の際の注意事項

- ・ 応募者本人が考えたものであり、他者の権利を侵害しないものとする。
- ・ 1回の応募につき、記入できるのは1つの校名案とする。
- ・ 応募にかかる費用は応募者の負担とし、応募用紙の返却は行いません。
- ・ 応募に際していただいた個人情報は校名選考以外には使用しません。
- ・ 決定された校名に関する一切の権利は山ノ内町教育委員会に帰属するものとする。

問い合わせ先・応募先

381-0498 山ノ内町こども未来課学校統合準備係 佐藤・菅原・(担当)新井

電話：0269-33-1102 FAX：0269-33-1104

メール：gakko@town.yamanouchi.lg.jp

※小中学生の場合は、学校への提出も可能です。